WHFF

フランスで11月に世界ホルスタイン会議

世界ホルスタインフリージアン連盟（WHFF）は昨年10月、イタリアで評議員会を開催し、体型審査に関する9項目の勧告と新たな遺伝性疾患のコード化を承認した。また、本年11月にはフランスで世界ホルスタイン会議を開催することを決めた。

WHFFの第49回評議員会が昨年10月22日、イタリアのシルミオーネで3年ぶりの対面方式で開催された。出席者はフランス、イタリア、オランダ、ハンガリー、カナダ、コロンビア、ニュージーランドの評議員と英国事務局の計8名。

WHFFは世界41カ国のホルスタイン登録団体が加盟し、ホルスタイン種登録事業や育種改良に関する国際間での情報交流を行っている。日本も1964年の第1回世界ホルスタインフリージアン会議以降、4年毎に主要国で開催されてきた世界会議に毎回出席し、1996年には札幌市でアジア初となる世界会議を主催した。

2020年にスイスで開催予定だった第15回世界会議は新型コロナ感染症拡大により1年延期後に開催が中止された。評議員会では、次回の世界会議開催国に立候補しているフランス、イタリア、スイスのうち、フランスが本年11月に登録協会の100周年記念と併せてWHFF世界会議と国内最大の乳牛ショウを開催したいと提案し、満場一致でこれを承認した。次回の世界会議は本年11月21日～22日、翌日からのショウと併せてフランス西部のナント市内のテーマパーク「ピュイ・デュ・フー」で開催される。

新しい遺伝性疾患BLIRDを承認

議題の2つ目は、昨年9月にスイスで開催された世界体型審査委員ワークショップ（WS）の概要と、同ワーキンググループからの体型審査に関する「鋭角性」の名称変更等を含む9項目の勧告について協議し、すべての項目を承認した。次回の体型審査WSは2024年にイタリアで開催することを内定した。

3つ目の議題は、フランスで発見された新しい遺伝性疾患「BLIRD」（牛リンパ球腸内滞留症＝仮称）の知見と略号コードについて協議した。BLIRDは腸内の免疫T細胞の欠損により、致死性はないが発育の遅延と若齢死亡率の上昇を招く。BLIRDは単純な劣性遺伝で、劣性ホモの個体のみに症状が発現するが、発症の割合は0・3％と低い。フランス国内で開発された特定チップによって遺伝子型の判定が可能であり、今後は国外でも広く利用されるだろうとしている。評議員会ではこの遺伝性疾患を認定し、略号コードを「LR」にすることで合意した。

各国も温室効果ガス削減に苦慮

4つ目の議題として、WHFF加盟国に対して事前に行った現況調査の概況が報告された。

①「現在のホルスタインの最大の課題」では、ゲノム選抜により改良が進展した一方で近交係数の上昇が懸念される、酪農家戸数の減少と大規模経営への統合・集約化に伴う生産システム多様化への対応、温室効果ガス削減に向けた国の畜牛頭数削減やげっぷ税等政策への反発、アニマルウェルフェアへの取り組みと動物愛護団体等からの非難等、②「牛乳価格の変化」では、コロナパンデミック以降、欧米の多くの国で乳価は高値上昇しているが生産コストも高騰、③「最近の気候変動の影響」では、年々の温暖化と極端な気象変動により家畜の健康や飼料生産への影響、干ばつが長期化して飼料生産量が劇的に減少し、その供給確保に苦慮等、④「コロナパンデミック後の登録協会の回復状況」では、長期間の在宅勤務対応もあったが、登録はほぼ自動化のため影響は少なかった、2022年はほぼコロナ前の状態まで回復し、ショウや対面での会議も再開されるようになり、生産者との再会を喜んでいる等。

スイス

世界審査委員WS開催

WS参加者集合写真

世界ホルスタインフリージアン連盟（WHFF）は昨年9月21～22日の2日間、スイスのモルジュで第14回世界審査委員ワークショップ（WS）を開催し、世界28カ国から審査委員50名が集まった。

このWSは2年に一度各国巡回で開催し、審査眼の統一と協議内容を各国審査委員に周知徹底することを目的としている。2020年に開催予定であったが、新型コロナの感染拡大により延期となり、前回2018年から4年ぶりの開催となった。なお、日本ホルが出席した。

協からは國行審査委員

各国で様々な研究

WSは、スイスとフランス国境にまたがるレマン湖近くのホテルと、モルジュ近郊の農場で開催された。

1日目午前と2日目午後の理論的セッションでは、線形審査形質の国間相関についての報告、各国の研究報告があり、質疑が行われた。主な研究報告としては、歩様や跛行の調査、前肢外向の調査、趾皮膚炎（DD）、乳房傾斜、審査関連であった。

このうち、「乳房の傾斜」について、日本では昨年8月から評価公表されている。

鋭角性から肋の構造へ

協議事項では、前回WSからの懸案事項であった、Angularity（鋭角性）の名称変更の提案があった。

前回WSでは鋭角性の定義について、肋の開張60％、方向40％と重みづけることを決定し、名称変更も検討されたが、継続協議となっていた。

いくつかの名称案が出た結果、Rib Structure（肋着、乳房じん帯）について重点的に目合わせを行い、審査眼の統一を図った。

審査眼の統一

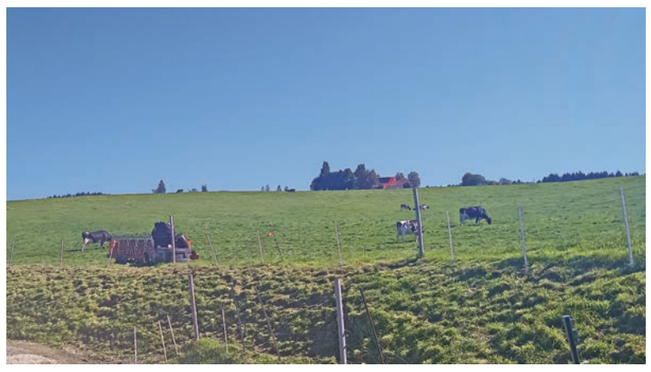
1日目午後と2日目午前中の実践的セッションでは、2農場でそれぞれ20頭の初産牛を用いて、線形18形質の審査と、各国間の相関がやや低い6形質（胸の幅、鋭角性、後肢後望、歩様、前乳房の付着、乳房じん帯）について重点的に目合わせを行い、審査眼の統一を図った。

次回WSはイタリア

出席者から開催国に対して感謝を述べ、2日間の日程が終了した。

次回は2024年にイタリアで開催予定。

模範審査風景



ワークショップ先の農場

共同開催

第10回全日本ブラックアンドホワイトショウ 2023セントラルジャパンホルスタインショウ

全国ホルスタイン改良協議会（中六角保広会長）は、セントラルジャパンホルスタイン改良協議会（宮垣俊介会長）の協力のもと、前回大会となる平成30年4月開催の同ショウに引き続き、2度目の共同開催を決定した。

長引くコロナ禍に加え、過去に経験したことのない極めて厳しい酪農情勢を打開すべく、ホルスタインの改良を志す同志が一致団結し、今後の改良指針に資するとともに、酪農業の更なる発展を図ることを目的として、全国規模としては5年ぶりとなるホルスタインショウの開催を決定した。

今回は本紙面を通して、開催概要等について紹介する。

①開催日・場所
審査日：令和5年4月14日（金）・15日（土）。
場所：静岡県御殿場市「御殿場市馬術・スポーツセンター」。

②都道府県出品割当頭数
出品頭数：200頭（予定）。
割当頭数：全国9ブロックに分け、各ブロックに頭数を割り当てる。

③出品牛の条件
ホルスタイン種血統登録牛で家畜個体識別耳標を装着した牛であること。

④出品牛の衛生対策
主催者が定める衛生検査及び予防接種を行い、指定の様式により証明書を提出すること。
なお、証明書の写しを出品申込とともに提出し、原本は出品牛とともに会場に持参すること。

⑤出品牛の搬入・搬出
搬入：4月12日（水）13時から16時、13日（木）8時から16時まで。
搬出：4月15日（土）13時から15時、16日（日）10時まで。

⑥出品（各種）とりまとめ
令和5年1月中旬（予定）。都道府県改良同志会（協議会）等の事務局へ依頼。

⑦出品申込締切日
令和5年3月27日（月）期限厳守。

⑧後援・特別協賛・協賛について
関係各機関（団体）に協力依頼するとともに広く募集する。

⑨出品目録の広告掲載並びに資材出展について
関係各機関（団体）に協力依頼するとともに広く募集する。

⑩新型コロナ感染防止対策
主催者が定める感染防止対策を遵守すること。

◇　◇　◇

その他、ショウ開催に関する詳細事項は、全国ホルスタイン改良協議会Webサイト（日本ホル協）に随時公開する予定。

2018年開催　第9回BWショウ　GC
「ブロードウエイ　マタドーア　ダブジユラ」
静岡県　K's南箱根牧場（株）

富士山と会場の馬術・スポーツセンター

中六角会長

日本ホル協特集

新人紹介

10月1日付で採用され、事業部証明課に配属となりました野口愛（のぐちあい）と申します。出身は花火大会で有名な新潟県長岡市です。新型コロナ感染症により中止となっていた花火大会も昨年は開催され、子供の頃から夏の一番の楽しみとなっていた花火を再び見ることができ、大変嬉しく思います。

私は短大卒業後に地元の金融機関に就職したこともあり、主に今までは金融業界で仕事を行ってきました。2020年、育休からの復帰の際にご縁があり日本ホル協の事業部証明課にて遺伝子型検査の受付・データ入力等を担当しています。今までの仕事とは違い「業界未経験・知識ゼロ」から始めた中で、専門用語や知識を業務と並行して学んでいる毎日ですが、担当している業務が正しい血統登録につながったり、将来的な牛の改良につながるといったことに大変やりがいを感じております。

日常生活では毎日乳製品をいただく消費者の一人です。日本ホル協で仕事を始めてからは、産地を見たり、色々な商品を買うように心がけるなど意識も変わりました。今後も酪農家の方々の思いが詰まった乳製品を大事にいただいていきたいと思います。

まだまだ不慣れでご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

事業部証明課
野口　愛